

予算の執行状況に関する調査

[議事録 3/8]

アベノミクスの達成目標

・大企業における交際費の損金算入への所見

○吉川沙織君

話変わりますけれども、現政権として、大企業の交際費についても、今は一部の中小企業だけにしか認められていない損金算入を大企業に対しても認めようという動きが出ていると思います。

これも、企業が今抱え込んでいるお金を外に流れ出すことで、飲食店での消費拡大による景気の下支えを見込んだものであると思いますが、財務大臣、いかがでしょうか。



○国務大臣(麻生太郎君)

いろいろ御意見があるところですが、御意見の割れるところですが、これは、中小企業でやらせていただいたの



が今年なんですけれども、これもう賛成された方はなかなかいらっしやらなかったのが私どもの役所の内部事情。分かりやすく説明しているでしょう、ね。

約 350 億円ということに、中小企業の分の歳入はそれぐらいあったと思いますが、これが大企業ということになりますとその 4 倍、5 倍ぐらいあると思いますので、その意味でいきますと千数百億

のお金になるのだと思いますが。

今のような話で、私どもとしては、デフレーションというものであれば、これは基本的に GDP に還元をすれば設備投資か個人消費か政府支出、この3つで GDP は基本的にでき上がっております。したがって、そのうちの個人消費の部分がデフレーションであれば、大根が97円、あら、今日95円になったわと、もししばらく待ったらまた下がるのかと思ったらそれは買わないんですよ、ハンドバッグでも洋服でもみんな同じことで。それで、企業も同じように設備投資はため込んだんですって、ずっと。だって、安くなるかもしれないんだから。そうすると、じっと持っていたらたまりにたまって280兆たまったんだ、それが現実問題ですよ。

だから、これが気持ちよく使えるような方法というのに、給料を上げてくださいと言っても、ベースアップじゃなかなかやらないんですよ。御存じのように、会社に勤めたら分かるでしょうけど、賞与では出しても給与じゃ出さない。そこで、何となくといって気持ちよく出せる部分としては、今御推薦になりましたものを一つの方法かなと私自身としては考えております。

○吉川沙織君

大企業の交際費を損金算入に当て込むということを推薦しているわけではありません。

1,000億の減収が出るということ、これについていかがお考えですか。1,000億、大企業にこれ、損金算入を認めると1,000億を超える減収効果が生まれることになりましたが、これについていかがでしょうか。

○国務大臣(麻生太郎君)



税収減が出るというのは間違いなく、確かだと思いますが、他方、その分だけお歳暮が増えてみたり、いろんなところで増えてみたり、これは一斉に使いますから、その部分では消費税は必ず入ってきます。

○吉川沙織君

財務大臣のおっしゃることを信じて、見守っていきたいと思います。

続きの議事録(4/8)は、[こちら](#)です。